

## 2024年3月期 第2四半期決算短信(日本基準)(連結)

2023年11月13日

上場会社名 石垣食品株式会社  
コード番号 2901 URL <https://www.ishigakifoods.co.jp>  
代表者 (役職名) 代表取締役会長  
問合せ先責任者 (役職名) 代表取締役社長  
四半期報告書提出予定日 2023年11月14日  
配当支払開始予定日  
四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
四半期決算説明会開催の有無 : 無

上場取引所 東  
TEL 03-3263-4444

(百万円未満切捨て)

## 1. 2024年3月期第2四半期の連結業績(2023年4月1日～2023年9月30日)

## (1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年3月期第2四半期	1,003	32.8	57		63		62	
2023年3月期第2四半期	1,494	17.9	95		108		78	

(注) 包括利益 2024年3月期第2四半期 68百万円 ( %) 2023年3月期第2四半期 91百万円 ( %)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2024年3月期第2四半期	4.36	
2023年3月期第2四半期	5.47	

(注) 2024年3月期第1四半期及び2023年3月期第2四半期の潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式は存在するものの、1株当たり四半期純損失であるため、記載しておりません。

## (2) 連結財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率
	百万円	百万円	百万円	百万円	%
2024年3月期第2四半期	774		65		8.0
2023年3月期	890		133		14.7

(参考) 自己資本 2024年3月期第2四半期 62百万円 2023年3月期 130百万円

## 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年3月期		0.00		0.00	0.00
2024年3月期		0.00			
2024年3月期(予想)				0.00	0.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

## 3. 2024年3月期の連結業績予想(2023年4月1日～2024年3月31日)

当社グループの今後の業績の見通しにつきましては、「非開示」とさせていただきます。  
その理由は、既存事業の業績はある程度見通すことができるものの、当社グループは現在、新規事業の展開やM&Aの検討を積極的に行うなど、事業体制の大幅な再構築を行っており、それらが業績に与える影響を見通すことができず、現時点では今後の業績の見通しを適正かつ合理的に算定することが困難であることです。

## 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無  
新規 社 (社名) 、 除外 社 (社名)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示  
会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無  
以外の会計方針の変更 : 無  
会計上の見積りの変更 : 無  
修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2024年3月期2Q	14,295,700 株	2023年3月期	14,295,700 株
期末自己株式数	2024年3月期2Q	1,780 株	2023年3月期	1,780 株
期中平均株式数(四半期累計)	2024年3月期2Q	14,293,920 株	2023年3月期2Q	14,293,921 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

### 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する趣旨のものではありません。実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
3. その他	8
継続企業の前提に関する重要事象等	8

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間における当社グループの連結業績は、OEM供給化粧品及び雑貨の売上計上がなかったこと並びにインターネット通信販売事業の減収により売上高1,003,914千円（前年同四半期比32.8%減）となりました。営業損益は、前期の業績に大きく貢献したOEM供給化粧品及び雑貨による利益計上はなくなったものの、自社ブランド化粧品事業の立上げに伴う先行費用が軽くなったことや食品事業の損失縮小により営業損失57,649千円（前年同四半期は営業損失95,083千円）と損失が縮小しました。経常損益は、前期に支出した新規事業やM&Aを検討する費用等が軽減されたことから経常損失63,947千円（前年同四半期は経常損失108,668千円）となりました。最終損益は、前期に特別利益として計上した自社工場売却に伴う固定資産売却益がなくなったことから、親会社株主に帰属する四半期純損失62,356千円（前年同四半期は親会社株主に帰属する四半期純損失78,193千円）となりました。

セグメントの業績は、次のとおりであります。

#### ① 食品事業

飲料は、猛暑の影響を受けて麦茶が前期比微増、減収を続けていたごぼう茶も下げ止まって前期比微増となり、烏龍茶及び杜仲茶は減収となったものの、飲料全体では前期並みの売上となりました。珍味のビーフジャーキーは、OEM供給商品を中心に日本国内向け販売は減収となりましたが、中国向け販売が好調で日本国内向けの減収を上回り、食品事業全体を浮揚させる大幅な増収となりました。この結果、売上高154,238千円（前年同四半期比24.3%増）となりました。

損益面では、飲料について値上げが定着したことに加え、珍味について工場稼働率の向上による採算改善が寄与して、当第2四半期連結会計期間では黒字を計上したことから、当第2四半期連結累計期間の損益は、営業損失3,354千円（前年同四半期は営業損失24,414千円）と、第1四半期連結累計期間（営業損失7,038千円）より赤字が縮小いたしました。

#### ② インターネット通信販売事業

インターネット通信販売事業においては、出荷業務の内製化に伴い出荷能力が減少したことに加え、新型コロナウイルス感染症の影響で堅調な売上となっていた衛生用品の需要が減退したこと等により、売上高835,798千円（前年同四半期比21.7%減）と減収となりました。

損益面においては、衛生用品の価格下落や配送料金の値上げ等に伴い採算が悪化し、営業利益4,140千円（前年同四半期比67.6%減）に留まりました。

#### ③ 化粧品事業

OEM供給商品について当第2四半期連結累計期間に売上が計上されなかったことから、売上高891千円（前年同四半期比99.6%減）と、大幅な減収となりました。

損益面においては、先行投資費用の支出が負担が前期より軽くなったことから、営業損失11,658千円（前年同四半期は営業損失49,948千円）と損失が大幅に減少しました。

#### ④ 雑貨事業

当第2四半期連結累計期間においては研究用新型コロナウイルス抗原検査キットの売上がなかったことから、売上高（前年同四半期は売上高102,957千円）及び営業利益（前年同四半期は営業利益11,754千円）の計上はありませんでした。

#### ⑤ その他

サプリメント商品及び給食事業、並びに当第2四半期から開始した青果事業の売上が計上されたことから売上高8,033千円となりました。

損益面においては、サプリメント商品及び給食事業は黒字になった一方、青果事業及び事業活動の準備を始めた福祉用具事業の先行投資が重く、営業損失6,398千円となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における財政状態は、主に親会社株主に帰属する四半期純損失の計上により総資産及び純資産が減少し、総資産は774,864千円（前連結会計年度末は890,777千円）、負債は709,426千円（前連結会計年度末は756,821千円）、純資産は65,438千円（前連結会計年度末は133,956千円）、自己資本比率は8.0%（前連結会計年度末は14.7%）となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当社グループの今後の業績の見通しにつきましては、「非開示」とさせていただきます。

その理由は、既存事業の業績はある程度見通すことができるものの、当社グループは現在、新規事業の展開やM&Aの検討を積極的に行うなど、事業体制の大幅な再構築を行っており、それらが業績に与える影響を見通すことができず、現時点では今後の業績の見通しを適正かつ合理的に算定することが困難であることです。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	221,023	169,776
受取手形及び売掛金	187,570	165,074
商品及び製品	335,147	312,818
原材料及び貯蔵品	27,652	19,746
前渡金	20,856	5,418
その他	60,737	51,568
貸倒引当金	△4	△4
流動資産合計	852,983	724,398
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	475	458
機械装置及び運搬具（純額）	5,628	2,984
リース資産（純額）	-	4,827
その他（純額）	441	314
有形固定資産合計	6,545	8,585
無形固定資産		
その他	2,607	2,105
無形固定資産合計	2,607	2,105
投資その他の資産		
投資有価証券	7,308	6,844
その他	21,333	32,931
投資その他の資産合計	28,641	39,775
固定資産合計	37,794	50,466
資産合計	890,777	774,864

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2023年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2023年9月30日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	139,016	146,649
未払金	13,966	15,362
短期借入金	19,100	19,100
1年内返済予定の長期借入金	136,153	57,901
リース債務	1,647	2,672
未払法人税等	6,844	5,904
賞与引当金	1,448	1,322
その他	30,518	38,167
流動負債合計	348,693	287,081
固定負債		
長期借入金	407,423	418,267
リース債務	703	4,077
固定負債合計	408,127	422,344
負債合計	756,821	709,426
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	989,102	989,102
資本剰余金	742,395	742,395
利益剰余金	△1,598,897	△1,661,254
自己株式	△782	△782
株主資本合計	131,817	69,460
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△696	△1,160
為替換算調整勘定	△514	△6,211
その他の包括利益累計額合計	△1,210	△7,371
新株予約権	3,349	3,349
純資産合計	133,956	65,438
負債純資産合計	890,777	774,864

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自2022年4月1日 至2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自2023年4月1日 至2023年9月30日)
売上高	1,494,581	1,003,914
売上原価	1,074,039	683,467
売上総利益	420,541	320,446
販売費及び一般管理費	515,624	378,096
営業損失(△)	△95,083	△57,649
営業外収益		
受取利息	14	4
為替差益	31	9
受取損害金	-	567
雑収入	1,046	74
営業外収益合計	1,091	654
営業外費用		
支払利息	4,380	3,547
株式交付費	1,947	-
雑損失	8,349	3,403
営業外費用合計	14,677	6,951
経常損失(△)	△108,668	△63,947
特別利益		
固定資産売却益	31,271	2,386
特別利益合計	31,271	2,386
税金等調整前四半期純損失(△)	△77,397	△61,560
法人税、住民税及び事業税	796	796
法人税等合計	796	796
四半期純損失(△)	△78,193	△62,356
親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	△78,193	△62,356



## 四半期連結包括利益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)
四半期純損失(△)	△78,193	△62,356
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	812	△464
為替換算調整勘定	△13,997	△5,697
その他の包括利益合計	△13,185	△6,161
四半期包括利益	△91,379	△68,517
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	△91,379	△68,517
非支配株主に係る四半期包括利益	-	-

### (3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

#### (継続企業の前提に関する注記)

当社グループは、前連結会計年度まで10期連続して親会社株主に帰属する当期純損失を計上していること、及び当第2四半期においても状況が改善されていないことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループとしては、当該状況を早期に改善・解消すべく対処を行っております。

食品事業においては、茶飲料についてファブレス化や価格改定等による採算改善が効果を発現しつつあり、またビーフジャーキーについても中国国内市場向けの販売が軌道に乗ってきたことから、引き続き事業採算の改善に努めてまいります。

前連結会計年度から本格的に事業を開始した化粧品事業においては、プロモーションの展開等により拡販に努めてまいります。その他、新規事業やM&A等に取り組んでまいります。

しかし、これらの施策は実施途上であり、現時点では継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められません。

なお、四半期連結財務諸表は継続企業を前提として作成しており、継続企業の前提に関する重要な不確実性の影響を四半期連結財務諸表には反映しておりません。

#### (株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

##### I 前第2四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年9月30日)

###### 1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

###### 2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

##### II 当第2四半期連結累計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

###### 1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

###### 2. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

### 3. その他

#### 継続企業の前提に関する重要事象等

当社グループは、前連結会計年度まで10期連続して親会社株主に帰属する当期純損失を計上していること、及び当第2四半期においても状況が改善されていないことから、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況が存在しております。

当社グループとしては、当該状況を早期に改善・解消すべく対処を行っております。

食品事業においては、茶飲料についてファブレス化や価格改定等による採算改善が効果を発現しつつあり、またビーフジャーキーについても中国国内市場向けの販売が軌道に乗ってきたことから、引き続き事業採算の改善に努めてまいります。

前連結会計年度から本格的に事業を開始した化粧品事業においては、プロモーションの展開等により拡販に努めてまいります。その他、新規事業やM&A等に取り組んでまいります。